

わたしの『大人になれなかった弟たちに……』

——登場人物の心情が伝わる朗読をしよう——

使用教材:大人になれなかった弟たちに……(1年) 埼玉大学教育学部附属中学校教諭

つづらゆうき
廿樂裕貴

1 指導計画 (全六時間)

● 目標

- ◎ 描写を基に場面の展開や人物の関係、心情の変化などを捉える。
- ◎ 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。
- ◎ 粘り強く描写を基に読み、学習の見直しをもって朗読しようとする態度を養う。

● 展開

第一次 (一時間)

- 範読を聞き、感想をもつ。
- 吉永小百合さんの原爆詩の朗読の動画を見て、朗読のよさを見つける。

第二次 (三時間)

- 「僕」か「母」の心情が表れている部分から自分が朗読したい場面を選ぶ。
- 同じ場面を選んだ生徒どうしでグループを組み、場面を選んだ理由、登場人物の心情、着目した描写を伝え合う。

- ワークシートに解釈を書き込みながら、朗読の仕方を考える。

第三次 (二時間)

- 朗読発表会を行う。

2 指導の工夫・学習の実際

本単元ではあえて言語活動を提示する前に範読を行った。本作品には戦時体験に裏付けられた切実な訴えがあるため、虚心坦懐に作品に出会わせたいからである。

朗読への構えができた後に、女優の吉永小百合さんの原爆詩の朗読の映像を見せ、よさを分析した。声量や間だけでなく、声の硬軟、高低、相手意識なども挙げられた。朗読自体が目的ではないが、朗読を理解し、表現にもこだわることで、より深い思考、判断を促すことができると考えた。

第二次では、自分の朗読したい場面を選ばせたが、「僕」か「母」の心情がわかることを条件とした。観点が多岐にわたると、指導事項が曖昧になる危険性がある。言語活動は資質・能力を身につけるために行うので、つけたい力に即した場面選択が大切である。また、同じ場面を選んだ生徒でグループを組み、それぞれの読みを検討させた。例えば、「ヒロユキ」をおぼつて帰る場面を選択したグループでは、「『三人』という言葉をどう捉えるか」を議

論した。当初は「『ヒロユキ』は死んでも大切な家族だと『僕』が考えている」と解釈していたが、「『ヒロユキ』が死んでしまったことを受け入れられていないという現実感のなさが表現されている」と解釈が変わっていった。

第三次で行った朗読会では、朗読自体が目的とならぬよう、朗読の後、その場面をどう捉えたのかを解説させた。また一グループごとに質疑応答の時間を設け、互いの読みを吟味・検討できるようにした。ちなみに本番の朗読会では、朗読だけでは表現しきれないということ、ピアノ伴奏を付けるグループもあった。朗読を通して、作品世界に浸ることができたといえよう。

3 考察

生徒たちは初めからまっすぐ作品を味わっていたが、生徒どうしで解釈を伝え合うことによって、暗示的に表現されている心情にも気がつくことができた。多様な読みが出てくるからこそ、「みんな違ってみんないい」とならない厳密さを求めることが読みの深まりにつながると思われる。